

「評価の論点(案)」のたたき台(事務局案)

論点 1: CCS の実用化に向けた全体の取組について

2020(平成32)年に想定されているCCSの実用化に向けては、技術的課題のほか、制度的・社会的課題があり、それらが同時に解決される必要がある。本実証試験はその一部を担うものであるが、CCS 実用化に向けた課題解決全体のシナリオと、それに基づく適切な進行管理が必要であり、関係府省とも連携して、誰が何をいつまでにやるのかなどの具体的なシナリオ作りや体制整備を行うことが必要ではないか。

論点 2: ロードマップの策定と効率的な進行管理について

実証試験の内容や進度は、実証施設の建設地の諸条件に大きく依存することから、CCS の実用化に向けたシナリオにおける本実証試験の役割、位置付けを踏まえ、事業の進捗状況の確認やその見直し等の判断を適切に行うことが重要である。このため、最終年度および途中の各年度における技術的・経済的目標を可能な限り具体的に定めた年次計画(ロードマップ)を策定し、必要に応じて適宜その改定を行い、適切な進行管理をすべきではないか。また、経済産業省内において、責任をもってその判断を迅速かつ的確に行う体制を明確にすべきではないか。

論点 3: 安全性や環境への影響に関する説明責任について

本実証試験においては、CCS の実用化に向けた安全性や環境への影響面の課題への取組が特に重要であり、これらに関しては、国民への情報開示や説明責任を徹底して果たすべきではないか。